

消防団活動を始めて



〈執筆者〉

中央消防団
第8分団

団員 南野 泰志

私が所属する中央消防団第8分団は、角野友彦分団長以下14名（内、女性団員3名）で構成されています。最近では若手団員も続々と入団し、活性化しています。第8分団は、北は再度山のふもと一帯、南はJR線、東は花隈町、中山手・下山手5丁目、山本通5丁目以西、西は宇治川以东という広いエリアで活動しています。私たちは市街地の消防団ではありませんが、3月の山林パトロールでは他分団と協力し、普段はあまり足を踏み入れることの少ない山すそのエリアを厳重にパトロールし、ハイカーなどに山火事の危険性を認識しても

らえるよう務めています。ほかにも地域防災コミュニティ活動などで急救命やロープワークなどの講習を行ったり、夏祭りの警備など、さまざまな形で消防団活動を展開しています。

ほかの分団も同様だと思いますが、第8分団はともアットホームな分団です。近所の人たちが「ちよつと集まるうか？」といって集まってくる、まるでドラマのお茶の間の場面を再現しているような雰囲気があります。毎月行われる分団会議では「要するに、要するに、ですわ！」という角野分団長の熱血トークに對して、3名の女性団員（熊代団員・小林団員・桑島団員）が鋭



く突っ込み、吉田副分団長が絶妙のタイミングでまどめるといふ笑顔の絶えない楽しい仲間たちで、とても活気にあふれています。

そんな楽しいアットホームな分団ですが、『やるときはやる』と市民に強烈な印象を与えたのが、昨年9月の中山手市営住宅火災のときです。わが第8分団の河合班長が、わが身の危険を顧みず、煙の中から逃げ遅れた住民2名を無事救出されたのです。この素晴らしい行動は、わが第8分団の誇りです。

私はまだ入団3年目の新米団員ですが、気持ちは熱く、「わが街、わがふるさとを守りたい」といつも願っています。そんなたった一人の小さな志でも、その一つ一つが積み重なれば大きな力となっていくと信じ、今後も消防団活動を通して、地域の方々とともに歩んでいこうと思っています。